2026年2月期（2025年度）
第3四半期

決算説明資料

2026年1月8日
ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

（代表取締役社長 保元道宣）

新年あけましておめでとうございます。株式会社オンワードホールディングス代表取締役社長の保元です。本日は年始の大変お忙しい中、説明会にご参加をいただきまして、ありがとうございます。それでは始めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。お手元のパワーポイント、決算説明資料を使いましてご説明を進めさせていただきたいと思います。

MISSION STATEMENT

オンワードグループのミッションステートメント

ヒトと地球（ホシ）に
潤いと彩りを

「社員の多様な個性をいかしたお客さま中心の経営」により

地球と共生する「潤いと彩り」のある生活づくりに貢献する

『生活文化創造企業』

として前に進み続ける

Contents
目次

01 連結実績および連結業績予想ハイライト P4

02 2025年度 第3四半期累計 連結実績 P7

03 2025年度 通期 連結業績予想 P12

04 「ONWARD VISION 2030」進捗状況 P15

05 Appendix P20

01

連結実績および連結業績予想
ハイライト

2025年度 第3四半期累計 連結実績ハイライト

ONWARD

売上高	営業利益	当期純利益	EBITDA※
1,747 億円	95 億円	76 億円	136 億円
前年同期比 +16.5% +248億円	前年同期比 +11.3% +10億円	前年同期比 +32.1% +19億円	前年同期比 +10.2% +13億円

※ EBITDA＝営業利益+減価償却費等

- 第3四半期累計の売上高は、前年同期比で16.5％増収の1,747億円となった。特にオンワード樫山やオンワードパーソナルスタイルの冬物衣料の販売が好調に推移し、増収に貢献した。
- ブランド別の売上高は、『アンフィーロ』（+41.6％増収）、『カシヤマ』（+29.1％増収）、『チャコット・コスメティクス』（+28.0％増収）等の戦略強化ブランドが好調だった。『23区』（+4.3％増収）等の基幹ブランドも堅調に推移した。
- 販路別の売上高は、百貨店が1%の微減収となったが、ショッピングセンター等が37％、ECが17％の大幅増収となった。
- 営業利益は11.3％増益の95億円となった。広告宣伝費等の販管費の効率化が奏功し、販管費率を0.1％上昇の50.0％に抑えた。売上総利益率は、在庫管理の徹底等により55.5％を確保した。
- 当期純利益は32.1％増益の76億円で着地した。事業構造改革が一段落したこと等から特別損失の計上額が縮小した。また政策保有株式の縮減等に伴う特別利益の計上も寄与した。EBITDAは10.2％増の136億円となった。
- 以上の結果、増収および全段階利益での増益を達成した。

Copyright by ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

5ページ目をご覧いただきたいと思います。2025年度第3四半期累計の連結実績ハイライトでございます。

まず、売上高でございます。前年同期比16.5%、248億円増収の1,747億円となっております。営業利益につきましては、前年同期比11.3%、10億円増益の95億円となりました。当期純利益につきましては、前年同期比32.1%、19億円増益の76億円となっております。最後に、EBITDAにつきましては、前年同期比10.2%、13億円増の136億円で着地をいたしました。第3四半期累計の売上高につきましては第3四半期の特に10月の下旬からですね、前年と比べますと、冷え込みが少し比較的早めに始まりまして、冬物衣料の販売が好調に推移をいたしました。特に『23区』を始めとするオンワード樫山のブランド、それからオンワードパーソナルスタイルが展開するオーダースーツの『カシヤマ』等が特に好調に推移をいたしました。増収に貢献をしております。またブランド別の売上高につきましては、『アンフィーロ』が累計で41.6%の大幅な増収を維持しております。またオーダースーツの『カシヤマ』につきましても、29.1%の大幅増収を継続しております。『チャコット・コスメティックス』も28%の大幅増収ということで、戦略的に強化しているブランド事業が引き続き好調を維持しております。またグループの旗艦ブランドであるオンワード樫山の『23区』につきましても、第3四半期の期間におきまして、堅調に推移いたしました。累計でも4.3%増収という形になっております。また販路別に見ますと、百貨店の売上高が上期2.6%の減収ということで苦戦をいたしましたが、第3四半期の期間で盛り返しまして、累計では百貨店流通1%微減収となりましたけれども、大幅に挽回基調でございます。また注力をいたしておりますショッピングセンター流通が37%、EC流通が17%、WEGOの連結効果もございますけれども、大幅な増収という結果となりました。以上が売上高でございます。利益面につきましては、まず営業利益が先ほど申し上げました通り、2桁増益となりましたけれども、これは一つには、販管費のコントロールにこの下期から力を入れておりまして、これは特に広告宣伝費の中でも、クーポンあるいはポイントアップ等のですね、価格に近しい販促施策について厳選をするなど、効率化が奏功をいたしております。非常に為替の動向やインフレ傾向で、販管費の上昇基調は止まらないわけでございますけれども、0.1%上昇の50%に、販管費率を抑制することができております。また売上総利益率、粗利益率につきましても、在庫管理の徹底などによりまして、ほぼ前期と同水準の55.5%を確保することができております。結果11.3%の営業増益という形を実現できました。当期純利益につきましては32.1%の大幅増益となったわけでございますけれども、これは一つには前期に特別損失の計上額が大きかった反動もございます。事業構造改革が一段落をしてきておりますので、この特損の計上額が縮小したことが大きく寄与いたしました。また歴年でですね、毎年着実に推進をしております政策保有株式の縮減等の結果として、特別利益の計上も一部寄与をしております。以上の結果、当期純利益の大幅増益に繋がっております。EBITDAも2桁増という形で着地をいたしました。以上の結果、増収および全段階利益での増益を達成できております。以上が第3四半期累計の連結実績ハイライトでございます。

2025年度 通期 連結業績予想ハイライト

ONWARD

売上高	営業利益	当期純利益	EBITDA※
2,300 億円	115 億円	100 億円	170 億円
前期比 +10.4% +216億円	前期比 +13.3% +13億円	前期比 +17.4% +15億円	前期比 +10.0% +15億円

※ EBITDA＝営業利益+減価償却費等

- 引き続き、不透明な経営環境に対応した柔軟な事業運営を継続し、販管費の効率化を一層徹底すること等により、通期の売上高は前期比10.4％増収の2,300億円、営業利益は13.3％増益の115億円、当期純利益は17.4％増益の100億円、EBITDAは10.0％増の170億円を予想する。（期初の業績予想を据え置く。）
- 1株当たり配当金については、期末配当として16円、既に実施済みの中間配当と合わせて30円（前期から4円増配）という期初の予想を維持する。

Copyright of ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

続きまして6ページをご覧いただきたいのですが、通期の予想ハイライトでございます。

これにつきましては期初の業績予想を据え置かせていただいております。年初より、様々な海外も含めまして国際情勢の不透明さは増してきているというふうに考えておりまして、為替動向も含めまして、不透明な状況が続きますので、これに対応した柔軟な事業運営を継続いたしますし、販管費の効率化という守りについても、一層徹底する必要があると考えております。こうした施策を徹底してまいりますけれども、やはり、不透明感が拭えない昨今の経営環境に配慮しまして、期初の業績予想を記載の通り据え置いております。売上高2,300億円、営業利益115億円、当期純利益100億円、EBITDA170億円、この期初の予想につきましては着実に達成して参りたいというふうに考えております。

1株当たりの配当金につきましては、今期初の中間配当を既に実施済みでございます中間配当14円と、期末配当の16円を合わせて、これも期初の予想通り30円前期から4円増配という計画をしっかりと実施をしていきたいとこのように考えております。

私からの説明は一旦以上でございます。

02

2025年度 第3四半期累計
連結実績

2025年度 第3四半期累計 連結実績

ONWARD

- 第3四半期累計の売上高は、前年同期比で16.5％増収の1,747億円。オンワード樫山やオンワードパーソナルスタイル等の冬物衣料の販売が好調に推移。『アンフィーロ』（+41.6％増収）、『カシヤマ』（+29.1％増収）、『チャコット・コスメティクス』（+28.0％増収）等の戦略強化ブランドが好調。『23区』（+4.3％増収）等の基幹ブランドも堅調に推移。
- 営業利益は11.3％増益の95億円。広告宣伝費等の販管費の効率化が奏功し、販管費率を50.0％に抑制。在庫管理の徹底等により、売上総利益率は55.5％を確保。
- 当期純利益は32.1％増益の76億円。事業構造改革等に伴う特別損失が縮小。政策保有株式の縮減等に伴う特別利益の計上も寄与。EBITDAは10.2％増の136億円。

	（百万円）	3Q累計実績			
		2025年度	2024年度	増減額	増減率
1	売上高	174,725	149,940	+24,785	+16.5%
2	売上総利益	96,907	83,433	+13,474	+16.1%
	（対売上高比率）	(55.5%)	(55.6%)		(△ 0.1%)
3	販管費	87,378	74,873	+12,505	+16.7%
	（対売上高比率）	(50.0%)	(49.9%)		(+0.1%)
4	営業利益	9,529	8,560	+969	+11.3%
	（対売上高比率）	(5.5%)	(5.7%)		(△ 0.2%)
5	経常利益	9,403	8,456	+947	+11.2%
	（対売上高比率）	(5.4%)	(5.6%)		(△ 0.2%)
6	当期純利益	7,635	5,780	+1,855	+32.1%
	（対売上高比率）	(4.4%)	(3.9%)		(+0.5%)
7	EBITDA※	13,590	12,328	+1,262	+10.2%
	（対売上高比率）	(7.8%)	(8.2%)		(△ 0.4%)

※ EBITDA＝営業利益+減価償却費等

Copyright © ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

2025年度 第3四半期累計 主要事業会社別実績

ONWARD

		(百万円)	3Q累計実績 2025年度	2024年度	増減額	増減率
1	オンワード樫山+HD	売上高	86,752	84,687	+2,065	+2.4%
		営業利益	4,962	5,132	△ 170	△ 3.3%
2	ウィゴー	売上高	24,339	5,419	+18,920	+349.1%
	(2024年10月より連結)	営業利益	1,428	222	+1,206	+543.2%
3	オンワード	売上高	5,832	4,525	+1,307	+28.9%
	パーソナルスタイル	営業利益	73	△ 90	+163	↗
4	オンワード	売上高	13,077	13,112	△ 35	△ 0.3%
	コーポレートデザイン	営業利益	971	1,129	△ 158	△ 14.0%
5	チャコット	売上高	8,466	7,896	+570	+7.2%
		営業利益	1,021	899	+122	+13.6%
6	クリエイティブヨーコ	売上高	4,980	4,876	+104	+2.1%
		営業利益	443	555	△ 112	△ 20.2%
7	大和	売上高	17,741	15,106	+2,635	+17.4%
		営業利益	1,335	1,019	+316	+31.0%
8	国内グループ会社小計	売上高	82,172	59,084	+23,088	+39.1%
	(オンワード樫山+HD除く)	営業利益	5,576	4,476	+1,100	+24.6%
9	ヨーロッパ計	売上高	9,876	9,225	+651	+7.1%
		営業利益	81	13	+68	+523.1%
10	アメリカ計	売上高	1,290	1,468	△ 178	△ 12.1%
		営業利益	△ 109	△ 322	+213	↗
11	アジア計	売上高	4,855	4,715	+140	+3.0%
		営業利益	150	25	+125	+500.0%
12	海外グループ会社小計	売上高	16,021	15,408	+613	+4.0%
		営業利益	122	△ 284	+406	↗
13	連結合計	売上高	174,725	149,940	+24,785	+16.5%
		営業利益	9,529	8,560	+969	+11.3%

※グループの内訳は単純合算　連結合計には相殺消去含む

Copyright by ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

（取締役 財務・経理・IR担当 吉田昌平）

財務経理IR担当の吉田でございます。よろしくお願いします。私からは9ページの主要事業会社別の第3四半期実績からご説明申し上げたと思います。

上段オンワード樫山およびオンワードホールディングスにつきましては、主に『23区』または『アンフィーロ』が中心に好調で、流通としてはショッピングセンターまたはECを中心に、10月下旬から11月にかけて秋冬衣料がよく動き、また経費コントロールも進みまして、第3四半期間では増収増益となり、累計においてはまだ若干の減益にはなっておりますが、改善が進みました。

ウィゴーはショッピングセンターまたは路面店で、若者向けのカルチャーやライフスタイルを発信するストリートカジュアルブランドでございます。前年10月より連結加入しているため、当期9ヶ月に対して、前期2ヶ月の対比となっております。売上高189億円、営業利益12億円と、当期の連結合計における増収増益に大きく貢献しています。なお、前年同期間の単純比較でも、売上高前年同期比で7%と好調に推移しております。

オンワードパーソナルスタイルは、メンズウィメンズのカスタマイズスーツを中心に取り扱っており、流通の幅を広げながら出店を行っております。そのことにより増収を継続、第3四半期累計では29%の増収、前年同期比で営業利益が前期9,000万円の赤字のところ1.6億円の増益、黒字基調に転換することができました。

オンワードコーポレートデザインは、BtoBのユニフォームやタイアップグッズの生産、オフィス・スクールなどのスペースデザインなどを行っている企業でございます。第3四半期累計では、ユニフォーム等の大型案件獲得に苦戦したことにより若干の減収。営業利益では1.6億円の減益となっておりますが、第4四半期で受注獲得を進めます。

チャコットは『チャコット・コスメティックス』の寄与も大きく、会社合計で、売上高前年同期比28%で伸長し、増収増益となりました。

ペット、キャラクターグッズを取り扱っているクリエイティブヨーコについては、増収ながら経費が先行してしまい、減益となってしまいましたが、今後第4四半期以降、経費コントロールを行いまして、当初計画に利益を戻してまいります。

大和は子育て支援事業などの公共法人ビジネスや、法人向け事業が伸長し売上が17.4%の増収、営業利益は31%の増益となりました。

海外につきましては『JOSEPH』を中心事業とするヨーロッパにおいて、卸売の復調などにより、増収増益。

アメリカ計においては、前年に売却をしたゴルフ事業の影響で減収ではありますが、営業損失の減少により2億円の収益改善となりました。

アジアは大連工場と、香港を含む中国の販売事業で構成されておりますが、主にオンワードパーソナルスタイルのカスタマイズスーツの好調に連動し、工場運営の効率化が進み、増収増益となりました。

以上の結果、海外グループ会社小計としても、売上高対前年同期比6億円、4%の増収。営業利益は前年同期比で約3億円の赤字が1.2億円の黒字化に転換することができました。

2025年度 第3四半期累計 販路別売上高

ONWARD

	（百万円）	①オンワード樫山				②国内EC対象事業会社8社※				合計（①+②）			
		2025年度	2024年度	増減額	増減率	2025年度	2024年度	増減額	増減率	2025年度	2024年度	増減額	増減率
1	百貨店	30,336	31,392	△1,056	△ 3.4%	8,731	8,071	+660	+8.2%	39,067	39,463	△396	△ 1.0%
	構成比	**35.0%**	37.1%		△ 2.1%	**13.1%**	18.5%		△ 5.4%	**25.5%**	30.7%		△ 5.3%
2	SC他	31,371	29,545	+1,826	+6.2%	39,745	22,392	+17,353	+77.5%	71,116	51,937	+19,179	+36.9%
	構成比	**36.2%**	34.9%		+1.3%	**59.6%**	51.2%		+8.3%	**46.3%**	40.5%		+5.9%
3	リアル販路計	61,707	60,937	+770	+1.3%	48,476	30,463	+18,013	+59.1%	110,183	91,400	+18,783	+20.6%
	構成比	**71.1%**	72.0%		△ 0.8%	**72.7%**	69.7%		+2.9%	**71.8%**	71.2%		+0.6%
4	自社EC	21,001	21,237	△236	△ 1.1%	13,193	10,359	+2,834	+27.4%	34,194	31,596	+2,598	+8.2%
	構成比	**24.2%**	25.1%		△ 0.9%	**19.8%**	23.7%		△ 3.9%	**22.3%**	24.6%		△ 2.3%
5	自社EC比率	**83.9%**	89.4%		△ 5.6%	**72.4%**	78.3%		△ 5.9%	**79.0%**	85.4%		△ 6.4%
6	他社EC	4,044	2,513	+1,531	+60.9%	5,041	2,871	+2,170	+75.6%	9,085	5,384	+3,701	+68.7%
	構成比	**4.7%**	3.0%		+1.7%	**7.6%**	6.6%		+1.0%	**5.9%**	4.2%		+1.7%
7	EC計	25,045	23,750	+1,295	+5.5%	18,234	13,230	+5,004	+37.8%	43,279	36,980	+6,299	+17.0%
	構成比	**28.9%**	28.0%		+0.8%	**27.3%**	30.3%		△ 2.9%	**28.2%**	28.8%		△ 0.6%
8	売上高計	86,752	84,687	+2,065	+2.4%	66,710	43,693	+23,017	+52.7%	153,462	128,380	+25,082	+19.5%

※Eコマースを運営している以下の国内事業会社8社
ウィゴー、オンワードパーソナルスタイル、アイランド、ティアクラッセ、チャコット、クリエイティブヨーコ、大和、KOKOBUY

Copyright ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

10ページ、販路別売上高についてです。オレンジ囲いのところを中心にご説明申し上げます。

上段から百貨店の構成比が25.5%、前年同期比5.3%の構成比が減少。売上高としては1%の減収という結果でございました。一方ショッピングセンター他では構成比が46.3%、前年同期比で5.9%構成比が増加し、売上としては36.9%の大幅増収となりました。その結果として、リアル販路計では、20.6%の増収でございます。

下段、ECにつきましては、自社EC化率が79%、EC計では売上高が対前年同期比17%の増収、構成比は28.2%でした。

11ページ、戦略強化ブランド事業の実績でございます。

先ほど申し上げた通り、『23区』につきましては、秋冬アイテムの開発が奏功し、上期0.6%であったところ4.3%と、上期から大きく改善いたしました。スーツの『カシヤマ』は、既存店舗だけでなく、郊外型ショッピングセンターの出店を拡大し29.1%の増収となりました。『チャコット・コスメティックス』は販路拡大と季節限定商品が好調に推移し28%の増収。右上『アンフィーロ』はデジタル戦略強化により、新規客を獲得でき、認知アップとともに売上増に繋がり、41.6%の増収となりました。『ウィゴー』は9ヶ月同期間対比の単純比較で6.5%の増収。秋冬アパレルまたは雑貨の開発強化により増収となりました。大和も販路の切り替え、直販ビジネスへの構造改革の中、法人向けやふるさと納税返礼事業などが好調に推移した結果、17.4%の増収となりました。以上、戦略強化ブランドの実績でございます。

03

2025年度 通期
連結業績予想

2025年度 通期 連結業績予想

ONWARD

■ 通期の売上高は、前期比10.4％増収の2,300億円、営業利益は13.3％増益の115億円、当期純利益は17.4％増益の100億円、EBITDAは10.0％増の170億円を予想。

（百万円）		通期予想			対2024年度		対公表値	
		2025年度	2024年度	公表値	増減額	増減率	増減額	増減率
1	売上高	**230,000**	208,393	230,000	+21,607	**+10.4%**	+0	**+0.0%**
2	売上総利益	**126,000**	113,575	126,000	+12,425	**+10.9%**	+0	**+0.0%**
	（対売上高比率）	**(54.8%)**	(54.5%)	(54.8%)		(+0.3%)		(+0.0%)
3	販管費	**114,500**	103,422	114,500	+11,078	**+10.7%**	+0	**+0.0%**
	（対売上高比率）	**(49.8%)**	(49.6%)	(49.8%)		(+0.2%)		(+0.0%)
4	営業利益	**11,500**	10,153	11,500	+1,347	**+13.3%**	+0	**+0.0%**
	（対売上高比率）	**(5.0%)**	(4.9%)	(5.0%)		(+0.1%)		(+0.0%)
5	経常利益	**11,000**	10,084	11,000	+916	**+9.1%**	+0	**+0.0%**
	（対売上高比率）	**(4.8%)**	(4.8%)	(4.8%)		(+0.0%)		(+0.0%)
6	当期純利益	**10,000**	8,516	10,000	+1,484	**+17.4%**	+0	**+0.0%**
	（対売上高比率）	**(4.3%)**	(4.1%)	(4.3%)		(+0.2%)		(+0.0%)
7	EBITDA※	**17,000**	15,452	17,000	+1,548	**+10.0%**	+0	**+0.0%**
	（対売上高比率）	**(7.4%)**	(7.4%)	(7.4%)		(+0.0%)		(+0.0%)

※ EBITDA＝営業利益+減価償却費等

Copyright of ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

13ページ、通期の連結業績予想につきましては先ほどご説明した通り、第3四半期の実績を踏まえまして当初公表を据え置きしておりますので、ご確認ください。

2025年度 通期 主要事業会社別予想

ONWARD

		（百万円）	3Q累計実績 2025年度	3Q累計実績 2024年度	3Q累計実績 増減額	3Q累計実績 増減率	通期予想 2025年度	通期予想 2024年度	通期予想 増減額	通期予想 増減率
1	オンワード樫山+HD	売上高	86,752	84,687	+2,065	+2.4%	115,000	113,613	+1,387	+1.2%
		営業利益	4,962	5,132	△ 170	△ 3.3%	7,200	7,190	+10	+0.1%
2	ウィゴー	売上高	24,339	5,419	+18,920	+349.1%	31,300	12,828	+18,472	+144.0%
	（2024年10月より連結）	営業利益	1,428	222	+1,206	+543.2%	1,400	123	+1,277	+1038.2%
3	オンワード	売上高	5,832	4,525	+1,307	+28.9%	7,550	6,215	+1,335	+21.5%
	パーソナルスタイル	営業利益	73	△ 90	+163	↗	140	18	+122	+677.8%
4	オンワード	売上高	13,077	13,112	△ 35	△ 0.3%	18,600	18,452	+148	+0.8%
	コーポレートデザイン	営業利益	971	1,129	△ 158	△ 14.0%	1,750	1,726	+24	+1.4%
5	チャコット	売上高	8,466	7,896	+570	+7.2%	11,000	10,169	+831	+8.2%
		営業利益	1,021	899	+122	+13.6%	860	845	+15	+1.8%
6	クリエイティブヨーコ	売上高	4,980	4,876	+104	+2.1%	7,250	6,798	+452	+6.6%
		営業利益	443	555	△ 112	△ 20.2%	830	821	+9	+1.1%
7	大和	売上高	17,741	15,106	+2,635	+17.4%	23,400	20,832	+2,568	+12.3%
		営業利益	1,335	1,019	+316	+31.0%	1,440	1,234	+206	+16.7%
8	国内グループ会社小計	売上高	82,172	59,084	+23,088	+39.1%	109,880	86,123	+23,757	+27.6%
	（オンワード樫山+HD除く）	営業利益	5,576	4,476	+1,100	+24.6%	6,820	5,431	+1,389	+25.6%
9	ヨーロッパ計	売上高	9,876	9,225	+651	+7.1%	13,500	12,407	+1,093	+8.8%
		営業利益	81	13	+68	+523.1%	300	173	+127	+73.4%
10	アメリカ計	売上高	1,290	1,468	△ 178	△ 12.1%	1,900	2,374	△ 474	△ 20.0%
		営業利益	△ 109	△ 322	+213	↗	△ 60	△ 379	+319	↗
11	アジア計	売上高	4,855	4,715	+140	+3.0%	7,200	7,047	+153	+2.2%
		営業利益	150	25	+125	+500.0%	140	91	+49	+53.8%
12	海外グループ会社小計	売上高	16,021	15,408	+613	+4.0%	22,600	21,828	+772	+3.5%
		営業利益	122	△ 284	+406	↗	380	△ 115	+495	↗
13	連結合計	売上高	174,725	149,940	+24,785	+16.5%	230,000	208,393	+21,607	+10.4%
		営業利益	9,529	8,560	+969	+11.3%	11,500	10,153	+1,347	+13.3%

※グループの内訳は単純合算　連結合計には相殺消去含む

Copyright by ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

14ページ、主要事業会社別の予想につきましてですが、個社ごとの説明は省略させていただきますが、囲っているオンワード樫山およびオンワードホールディングスは、通期で1,150億円、営業利益72億円を計画。対前年同期比約14億円、1.2%の増収。営業利益は1,000万円の増益を計画します。

8番、国内グループ会社小計では、売上高1,099億円、営業利益で約68億円。ウィゴーの増収分約185億円、営業利益の増益分13億円をも含めて、売上高約238億円の増収、営業利益で約14億円の増益を計画します。

12番、海外グループ会社小計では、売上高226億円、営業利益約4億円で、約8億円の増収、約5億円の営業増益を計画し、黒字化を達成する見込みでおります。

以上、駆け足ではございましたが、私からの説明を終えさせていただきます。

04

「ONWARD VISION 2030」進捗状況

（代表取締役社長 保元道宣）

この第3クォーターの決算発表に合わせまして、2021年度からスタートしております「ONWARD VISION 2030」の進捗状況についてご報告をさせていただきたいと思います。

この「ONWARD VISION 2030」は、コロナ禍で策定いたしまして、2021年度からスタートしております。2030年度に向けた10年計画の長期ビジョンなわけでございますが、本2025年度をもって前半戦を折り返す、前半戦を終えて折り返し地点にきておりますので、この進捗状況につきまして、詳細版につきましてはですね、本年4月の通期決算発表に合わせて、ご説明をさせていただきたいと考えておりますが、本日につきましては、かいつまんで要点として一つこのVISIONが、ファッション領域、ウェルネス領域、それからコーポレートデザイン領域の3本柱からなっておりますので、ファッション領域からオーダースーツブランド『カシヤマ』の成長戦略の状況につきまして、それからウェルネス領域につきまして、コスメティックス事業戦略の現状につきまして、一つずつご説明をさせていただければと思います。

① オーダースーツブランド『カシヤマ』の成長戦略

ONWARD

（オンワードパーソナルスタイル）

（イオンモール福岡『カシヤマ』）

- 従来の都心部での広域集客型店舗に加えて、**郊外型ショッピングセンターに『カシヤマ』の出店を加速。**
- 20-30万人商圏の「流山おおたかの森S・C」では、地域に合わせたマーケティング効果もあり、**オープン以来予約が好調。**「イオンモール福岡」、「イオンモール広島府中」、「イオンモール岡崎」でも**同様の現象が継続。**
- 都市型店舗は、学生を中心とした20代と、スーツにこだわりを持った50代が中心顧客だったが、郊外型店舗は、**30～40代の働き盛り世代まで顧客属性が拡大。**
- 今後も積極的に多様な商圏での出店を進めていく。

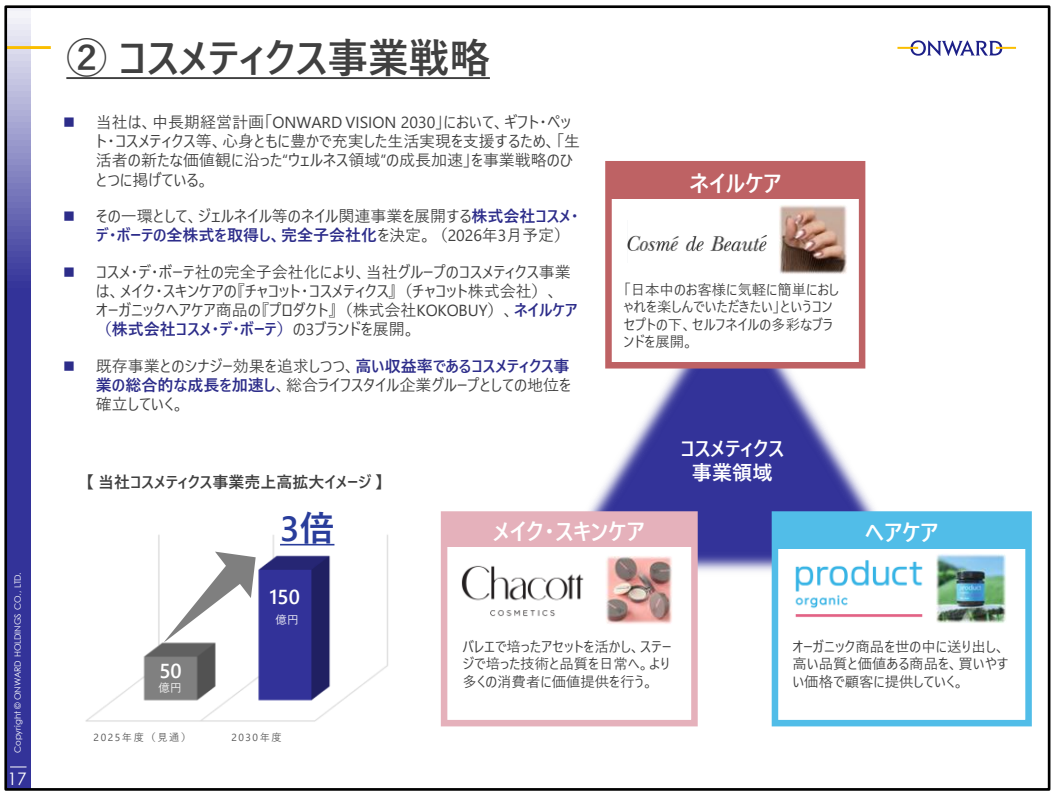
2026年度 オンワードパーソナルスタイル
- **郊外型ショッピングセンター等での『カシヤマ』出店加速**
- **Made in JAPANの生産基盤を活用しながら高価格帯中心の『カシヤマプレミアム』の展開を開始**

2026年度 売上高100億円 突破へ

Copyright in ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

まずファッション領域の成長戦略の中でも大きな柱となっております、オーダースーツブランド『カシヤマ』の現状でございます。これまで顧客接点、タッチポイントとしては、従来都心部で広域集客型の店舗を中心に構築をしてまいりましたが、この第3四半期から特にですね、郊外型のショッピングセンターへの出店を加速しております。具体的に言いますと、例えば千葉県の流山市にある「おおたかの森S・C」さんが典型なわけですけれども、人口で言いますと2、30万人の商圏というところなんですけれども、こういった郊外型の商圏で1店舗をしっかりと経営できるのか、ということをマーケティングとしてトライアルをスタートいたしましたところ、オープン以来非常に予約は好調に入っておりまして、この第3クォーターでも福岡市の郊外にありますイオンモールさん、広島市の郊外にあるイオンモール広島府中さん、あるいは岡崎市ありますイオンモール岡崎さん等々でもですね、同様な現象が継続をしております。ですから都心型ではなく郊外型の商圏におきましても、しっかりと顧客とのタッチポイントを構築できそうだという手応えを強くこの第3四半期に感じることができております。またお客様の客層につきましても、都心型店舗におきましては、学生さんを中心とした就活ですとか成人式の需要を目的とする20代のお客様、3万円からといったプライシングの面も魅力があるんだと思いますけど、20代のお客様と、元々オンワードグループが得意とするスーツにこだわりを持った50代が中心顧客で、その間の30代40代の働き盛り世代のお客様が比較的手薄でございましたけれども、この郊外型のタッチポイント、ショッピングセンターでのタッチポイントは逆にこの3、40代のお客様が、非常に多く取れているということで、ここは非常にオンワードグループとしても重視をしている客層なんですけれども、ここにタッチポイントを作ることができそうだということで、非常に手応えを感じております。この事例を前提としながら今後同様な2、30万人商圏のタッチポイントを、全国に積極的に拡大していきたいということで、この『カシヤマ』ビジネスにつきましては、2026年度、来年度売上高の100億円の突破を実現しながら、ビジョンの最終年度の2030年度には300億円規模の、基幹事業に育て上げたいとこのように考えております。

またこの中でオーダースーツの高価格帯につきましても、この『カシヤマ』事業の中に組み込んでいきたいと、2026年度から計画をしておりまして、この際の生産基盤につきましては、メイドインジャパンの生産基盤を新たにこの「カシヤマプレミアム」という形で高価格帯中心のラインを作りまして、これにつきましてはメイドインジャパンの生産基盤を、パートナーの工場さんと一緒に構築していきたいと考えております。従来のものは、中国の大連のスマートファクトリーを中心に、やってきておりましたけれども、この高価格帯については、メイドインジャパンを重視していきたいと考えております。価格帯でいきますと8万円あたりを境目に、オーダースーツの民主化を掲げておりますので、8万円以下の分野については、大連工場を中心に活用する。それからそれを上回る8万円を超えていく10万円数十万円の商品についてはですね、メイドインジャパンを中心に考えていくといった使い分けをしながら、この『カシヤマ』事業が路面店やショッピングセンターだけではなく、百貨店流通等も含めたマルチなタッチポイントの拡大をしていきたいと、これ2026年度以降このように考えております。以上が、オーダースーツブランド『カシヤマ』の成長戦略でございます。非常に手応えを感じている状況でございます。



それから二つ目にウェルネス事業領域の中核となりますコスメ事業の戦略について、ご説明させていただきたいと思います。元々「ONWARD VISION 2030」におきまして、ギフトやペット、コスメティクスなど心身ともに豊かで充実した生活実現をご支援するために、生活者の新たな価値観に沿ったウェルネス領域の成長加速と、いうことを事業戦略の柱に掲げております。これはもちろんファッションアパレルが来年創業100周年を迎えますけれども、事業の中核であることは変わりないわけでございますが、昨今の気候変動の問題ですとか、様々な事業環境の変化に対応するためには、やはりこのウェルネス領域をアパレルに続く大きな事業の柱に据えたいというのがグループ戦略として強く思っております。従来メイクやスキンケアをつかさどる「チャコット・コスメティックス」や、ヘアケアの領域の「プロダクト」オーガニック、これはKOKOBUY社が担当しておりますけれども、こういった事業堅調に拡大をしてきておりますけれども、先般昨年の末12月18日にプレスリリースさせていただきましたネイルケアの領域は、まだオンワードグループの中で、事業展開できておりませんでしたけれども、ご縁がありまして、株式会社コスメ・デ・ボーテの全株式を取得して、完全子会社化をするということを決定しております。3月の頭から連結化を実施する予定でございます。これによりまして当社のコスメティクス事業が、メイクスキンケア、ヘアケア、ネイルケアということで、肌、髪の毛、それから爪ということで、これはお洋服等も合わせて、広い意味でのファッションをつかさどるものでございますので、この辺の相乗効果、シナジー効果を出し、オンワードグループが持つオンワードメンバーズをはじめとする顧客基盤に、このコスメ商品についても認知を高めていくことで相乗効果を出して、コスメ事業の成長加速をしていきたいとこのように考えております。またこのコスメティックス事業領域は非常に高い利益率も魅力でございます。

② コスメティクス事業戦略

ONWARD

株式会社 コスメ・デ・ボーテ

【 会社概要 】

商号：	株式会社 コスメ・デ・ボーテ
設立：	1990年6月1日
事業内容：	化粧品、化粧品雑貨の企画開発 および輸入販売
売上高：	1,764百万円　※2024年11月期
従業員数：	33名　※2024年11月時点
主要取扱店舗：	ロフト、プラザ、ハンズ、 アインズ&トルペ、ウエルシア薬局、 スギ薬局、ツルハドラッグ、 サンドラッグ等

【 主な取扱ブランド 】

AiryBrush

KRYOLAN

DERMA COLOR

Copyright of ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

② コスメティクス事業戦略

ONWARD

コスメ・デ・ボーテ社 業績推移

- コスメ・デ・ボーテ社は、セルフネイル商品等の企画販売をおこない、主なユーザーは20～40代の女性。バラエティストアやドラッグストアなど全国 7,000 店舗以上で販売。
- 主力商品『Gel Me1』は、2025年に発売10周年を迎え、各種メディアの人気ランキング上位に入るなど高い評価を得ている。
- 高いブランド力を背景に、業績は拡大傾向にあり、**営業利益率は25％**と非常に高い水準を維持。
- 今後、市場拡大に加え、既存の販路をベースに、**当社の強みであるECや、海外市場等、新たな販路拡大**の検討を進める。

【 コスメ・デ・ボーテ社 業績推移 】

（単位：百万円）	2022.11	2023.11	2024.11
売上高	1,574	1,685	1,764
営業利益	439	425	453
営業利益率	27.9%	25.2%	25.7%
経常利益	443	429	459
当期純利益	293	355	302

Copyright of ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

19ページに記載しておりますが、このコスメ・デ・ボーテ社の事業につきましても、営業利益率は25%を超えております。オンワードグループ全体の現状の利益率が5%程度であることを考えますと、このコスメ事業領域の利益率が非常に高いわけでございまして、売り上げの規模に比べますとやはり利益貢献度が高いということもございます。グループ事業全体の収益性の向上という意味からも、このコスメ事業に力を入れて推進していきたいと、このように考えております。以上ウェルネス領域の中核であるコスメ事業戦略についてご説明申し上げました。

私からは以上でございます。よろしくお願いします。

05

Appendix

2025年度 第3四半期累計 連結販管費

ONWARD

	（百万円）	2025年度 3Q累計	2024年度 3Q累計	増減率	ウィゴー社除く 2025年度 3Q累計	ウィゴー社除く 2024年度 3Q累計	ウィゴー社除く 増減率
1	人件費	32,162	28,115	+14.4%	28,018	27,239	+2.9%
2	賃借料	24,094	20,536	+17.3%	19,771	19,521	+1.3%
3	運賃運搬費	5,875	4,889	+20.2%	5,235	4,741	+10.4%
4	広告宣伝費	6,493	5,401	+20.2%	5,632	5,244	+7.4%
5	減価償却費	2,681	2,510	+6.8%	2,446	2,457	△0.4%
6	その他	16,073	13,422	+19.8%	14,287	13,017	+9.8%
7	販管費計	87,378	74,873	+16.7%	75,389	72,219	+4.4%

【 増減要因 】

- 人件費 ・・・ 賃金アップ等の人的資本投資強化による増加
- 賃借料 ・・・ ショッピングセンター等店舗の売上伸長、新規店舗の出店等による増加
- 運賃運搬費 ・・・ EC売上、カタログギフト販売の増加等に伴う配送料の増加
- 広告宣伝費 ・・・ プロモーション施策やデジタル広告施策等、積極投資による増加
- その他 ・・・ 売上に連動する決済手数料や販売手数料、新規出店に伴う営業用消耗品費等による増加

Copyright © ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

2025年度 第3四半期累計
キャッシュフロー/設備投資/減価償却費

ONWARD

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前利益、および仕入債務の増加等により88億円の収入。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却等により7億円の収入。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の減少および配当金の支払い等の結果、112億円の支出。

設備投資

- 設備投資額は、前年同期から2億円増加の46億円。
- DX関連や出店関連など投資を厳選し、効率的に実施。

（百万円）

2025年度 3Q累計	2024年度 3Q累計	増減	増減率
4,611	4,453	+158	+3.5%

減価償却費

- 減価償却費は、前年同期から2億円増加の33億円。

（百万円）

2025年度 3Q累計	2024年度 3Q累計	増減	増減率
3,265	3,111	+154	+5.0%

Copyright of ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

2025年度 第3四半期累計 当期純利益影響項目

ONWARD

	（百万円）	2025年度 3Q累計	2024年度 3Q累計	増減率
1	**営業利益**	**9,529**	**8,560**	**+11.3%**
2	営業外収益	505	479	+5.4%
3	受取利息・配当金	171	233	△ 26.6%
4	為替差益	1	-	-
5	持分法による投資利益	57	149	△ 61.7%
6	その他	274	96	+185.4%
7	営業外費用	631	583	+8.2%
8	支払利息	384	274	+40.1%
9	為替差損	-	70	-
10	その他	246	238	+3.4%
11	営業外損益計	△126	△104	-
12	**経常利益**	**9,403**	**8,456**	**+11.2%**
13	特別利益	1,967	1,771	+11.1%
14	投資有価証券売却益	1,708	865	+97.5%
15	固定資産売却益	258	906	△ 71.5%
16	特別損失	1,316	2,961	△ 55.6%
17	減損損失	1,289	363	+255.1%
18	関係会社整理損	-	1,454	-
19	段階取得に係る差損	-	1,088	-
20	その他	26	55	△ 52.7%
21	特別損益	651	△1,190	-
22	**税前利益**	**10,054**	**7,266**	**+38.4%**
23	法人税等	2,418	1,423	+69.9%
24	少数株主損益	-	61	-
25	**当期純利益**	**7,635**	**5,780**	**+32.1%**

【 当期純利益影響項目 】

- 営業外収益は、ウィゴーが持分法対象企業ではなくなったことによる「持分法による投資利益」の減少、「その他」の増加により26百万円の増加。
- 営業外費用は、金利上昇に伴う支払利息の増加等により、48百万円の増加。
- 以上の結果、経常利益は、前年同期比+11.2％増の94億円となった。
- 特別損益は、不動産等にかかる減損損失が増加したものの、前年度に計上したイタリアの清算損失、ウィゴー社株式の段階取得に係る差損などの一過性の損失がなくなったことなどにより、前年同期から約18億円の改善。
- 以上の結果、当期純利益は前年同期比32.1％増の76億円となった。

Copyright of ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

2025年度 第3四半期累計 連結貸借対照表

ONWARD

	（億円）	2025年度3Q末	2024年度末	前期末比±
1	**資産合計**	**1,893**	**1,792**	**+101**
2	**流動資産**	**929**	**801**	**+128**
3	現金及び預金	119	135	△ 16
4	売掛金	229	159	+70
5	棚卸資産	527	458	+69
6	**固定資産**	**964**	**991**	**△ 27**
7	有形固定資産	480	476	+4
8	無形固定資産	119	128	△ 9
9	投資その他の資産	365	385	△ 20
10	**負債合計**	**1,033**	**949**	**+84**
11	買掛金	288	197	+91
12	借入金	436	485	△ 49
13	その他	309	267	+42
14	**純資産合計**	**860**	**842**	**+18**
15	**自己資本比率**	**45.4%**	**47.0%**	**△ 1.6%**
16	**流動比率**	**122.3%**	**127.7%**	**△ 5.4%**

■ **棚卸資産**

冬物商材の仕入など季節的要因による増加。

■ **買掛金**

仕入の季節的要因と、決算期末日が休日だったことによる一時的な増加。

■ **借入金**

返済による減少。

■ **自己資本比率**

自己資本比率45.4%。前年度末より1.6%減少。

Copyright of ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

2025年度 セグメント別 第3四半期累計実績・通期予想

ONWARD

		(百万円)	3Q累計実績				通期予想			
			2025年度	2024年度	増減額	増減率	2025年度	2024年度	増減額	増減率
オンワード樫山＋HD	1	売上高	**86,752**	84,687	+2,065	+2.4%	**115,000**	113,613	+1,387	+1.2%
	2	売上総利益	**50,696**	49,467	+1,229	+2.5%	**66,150**	65,311	+839	+1.3%
		(対売上高比率)	**(58.4%)**	(58.4%)		(+0.0%)	**(57.5%)**	(57.5%)		(+0.0%)
	3	販管費	**45,734**	44,335	+1,399	+3.2%	**58,950**	58,121	+829	+1.4%
		(対売上高比率)	**(52.7%)**	(52.4%)		(+0.3%)	**(51.3%)**	(51.2%)		(+0.1%)
	4	営業利益	**4,962**	5,132	△ 170	△ 3.3%	**7,200**	7,190	+10	+0.1%
		(対売上高比率)	**(5.7%)**	(6.1%)		(△ 0.4%)	**(6.3%)**	(6.3%)		(+0.0%)
国内グループ会社小計（オンワード樫山＋HD除く）	5	売上高	**82,172**	59,084	+23,088	+39.1%	**109,880**	86,123	+23,757	+27.6%
	6	売上総利益	**41,890**	29,599	+12,291	+41.5%	**54,700**	42,388	+12,312	+29.0%
		(対売上高比率)	**(51.0%)**	(50.1%)		(+0.9%)	**(49.8%)**	(49.2%)		(+0.6%)
	7	販管費	**36,314**	25,123	+11,191	+44.5%	**47,880**	36,957	+10,923	+29.6%
		(対売上高比率)	**(44.2%)**	(42.5%)		(+1.7%)	**(43.6%)**	(42.9%)		(+0.7%)
	8	営業利益	**5,576**	4,476	+1,100	+24.6%	**6,820**	5,431	+1,389	+25.6%
		(対売上高比率)	**(6.8%)**	(7.6%)		(△ 0.8%)	**(6.2%)**	(6.3%)		(△ 0.1%)
海外グループ会社小計	9	売上高	**16,021**	15,408	+613	+4.0%	**22,600**	21,828	+772	+3.5%
	10	売上総利益	**7,287**	7,007	+280	+4.0%	**10,150**	9,947	+203	+2.0%
		(対売上高比率)	**(45.5%)**	(45.5%)		(+0.0%)	**(44.9%)**	(45.6%)		(△ 0.7%)
	11	販管費	**7,165**	7,291	△ 126	△ 1.7%	**9,770**	10,062	△ 292	△ 2.9%
		(対売上高比率)	**(44.7%)**	(47.3%)		(△ 2.6%)	**(43.2%)**	(46.1%)		(△ 2.9%)
	12	営業利益	**122**	△ 284	+406	↗	**380**	△ 115	+495	↗
		(対売上高比率)	**(0.8%)**	-			**(1.7%)**	-		

Copyright ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

ONWARD

ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。
この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は
一切責任を負いませんのでご承知おきください。